

# 市長から市民のみなさんへ

108

市長 白井博文

## 大阪府から視察がありました

2月5日、大阪府議会教育常任委員会から議員が6名本市に視察に来られました。視察目的は「生活改善・学力向上プロジェクト」の取組みについてです。本市が市内すべての小中学校でこの事業に取り組んでいることは、全国的に知る人ぞ知るところです。大阪府の橋下知事は、府下の児童・生徒の学力低下を憂い、本市のこの事業を当初から指導してくださっている陰山、小河両先生を大阪府教育委員に抜擢した知事です。大阪府の議会筋も、平成18年4月から実践し、着実に成果を上げている本市の取組みについて関心を持たれたのでしよう。

当日視察団は、市役所で教育委員会の担当者から説明を受けただけでお帰りになったそうですが、できれば朝のモジュール授業（10～15分の短時間授業）を参観し、小学生が高校で習うはずの古文を大声ですらすら暗唱（音読）する風景や、先生が時計片手に簡単な計算を繰り返す百ます計算をするときの先生と子どもたちとの規律ある師弟関係の形成過程、さらには何よりも、どの子どもたちの目も輝いている教室の様子などを視察してほしかったと思います。

朝のモジュール授業は、学校の了解があればどなたでも（一人でも）見学させてもらえます。「教室には入らず、廊下からの見学で我慢してください。」と言われるかもしれませんが、学校開放日などをとらえて、ぜひ一度モジュール授業の見学をお勧めします。このまちの未来を担う山陽小野田市の子どもたちが、今まさに成長していく姿が実感できると思います。

## 独居の高齢者に電話を架けました

本市には65歳以上の一人暮らしの高齢者が約2,400人いらっしゃいます。先の議会でのある議

員の提案に触発され、これら的高齢者を対象に「もしもし、お元気ですか。」の電話を架け、安否を確認するとともに、何か困っていることはないか、市役所にご用はないかなどを尋ねてみることを計画しました。しかし、担当課と一緒に構想を練るうちに、最近の物騒な世相からして、オレオレ詐欺と間違われ、かえってご迷惑をお掛けするのではないかなど、実施に慎重さを求める声が強くなりました。その結果、担当課がひとまず50世帯（50人）を抽出し、その方々に昨年12月、手紙を送りました。内容は「市役所から近く電話をお架けしますが、その際にこちらからご負担や押印等のお願いを申し上げることは一切ございません。」と付記したものです。そうした作業を経て今年の1、2月に市長、副市長が手分けして、一人暮らしの高齢者50人に「もしもし、お元気ですか。」の電話を架けてみました。総じて喜んでもらえましたが、よく外出する元気な高齢者がいらっしゃる一方で、外出はほとんどなく、「毎日テレビを見て暮らしている」「食料品は週に一度まとめ買いしている」という方や、「子どもが近くにいるので安心」という方がいらっしゃるかとすると「子どもはおらず親戚は遠方ばかり」と率直に不安を口にされる方もいらっしゃいました。また、民生委員への期待が大きいことも分かりました。わずか50人との電話による会話ではありましたが、何らかの手助けを求めている高齢者が結構いらっしゃる様子が分かりました。早速この結果を担当課と分析・協議し、行政として何ができるか取り組みを始めたいと考えます。



## 対話の日

【19:00から】

2月25日(木) 小野田保健センター